

## 1.4 1年課題研究

### (1) 研究開発の概要

学校設定科目「スーパーサイエンス概論」の一環として、生徒各々に興味関心のある分野に関する課題を設定させ、夏季休業中を利用して、深く調査・探求し、調べたことや自分の意見等をレポートとしてまとめさせるものである。課題のテーマは、生徒の課題研究への取り組みやすさを考慮し、自然科学のみならず、社会科学、生活科学、人文学等なども可とし、SSH企画ではあるが科学関連の内容に限定しなかった。

最後に全員が発表できる場を設定し、全員がそれを聞くという方法があるが、場所・時間的な制約もあり、優秀なレポートをピックアップして若干名の生徒に発表の場を設定して、1年生普通科全員に聞かせることとした。

### (2) 仮説（ねらい、目標）

上記の作業を通して、課題設定・調査研究方法・報告及び発表等の「スキル」の育成を図る。また「自ら学ぶ」姿勢を涵養する契機として位置づけることを目指す。

### (3) 課題研究の流れおよび内容

ア 本研究の概要について説明し、1学期中にテーマを決定させ、集約する。

イ 「SSH国語」および「現代社会」などの授業を通して、研究方法・レポート作成について指導を受ける。

ウ 1学期末及び夏季休業中の出校日に、テーマ登録・中間報告を提出させる。そして夏季休業中での研究成果を、2学期の初めにレポートにして提出させる。

エ 優秀な作品を各クラス2～3部程度選出する。

オ 各クラスで選ばれた作品を学年主任とSSH担当でさらに選出する。今回は5人の作品を選出し、発表の可否について本人に確認する。

カ 冬季休業中を利用し、パワーポイントでプレゼン資料を作成させる。

（自宅等でできない生徒には、学校のパソコンを利用させた。）

キ 3学期末の授業時間を利用し、1年普通科生徒に対し発表会を行なう。発表会は、一斉に発表を聞くスタイルとし、聞く生徒には記録を取らせる。

### (4) 発表会

ア 実施日時

平成22年3月16日（火）4限

イ 実施場所

本校 第一体育館

ウ 実施内容

以下の生徒・テーマによるプレゼンテーションを行なった。

加藤 奨（1組）「数のサブリミナル効果」

森 俊仁（1組）「エコカーの現在とこれから」

栗木寛斗（3組）「環境問題の問題点」

中原謙心（5組）「摩擦熱による温度上昇」

小林志織（7組）「地球の誕生を知る」

### (5) 今後に向けて

発表時間の制約上、プレゼンの準備をさせた生徒は発表する5人のみとなった。全員対象の研究という側面から、クラス単位での小グループ（6人程度）による発表会による互選を経て、学年全体での発表会を設ける方法が好ましいとも考えられる。個々の問題意識や学ぶ姿勢を高揚させることはできたものの、プレゼンテーションや他者評価、また他教科との融合など多くの課題が明らかとなった。